

議事録

件名	第24回自殺予防対策委員会
日程	令和2年6月15日(月)～令和2年6月24日(水)
参加者	内村委員長、大治副委員長、別府委員、寺崎委員、樋口委員、中村委員、石井委員、漆原委員、吉富委員、川口委員、高田委員、清水委員、眞子委員、江頭委員、石橋委員
次第	1. 報告事項(1)令和2年度の主なスケジュール 2. 協議事項(1)平成31年度取り組み実績及び令和2年度取り組み方針(案)について (2)セーフコミュニティ実態調査について (3)セーフコミュニティ活動推進事業所連携事業(仮称)について 3. その他
意見者	1. 報告事項 (1)令和2年度の主なスケジュール 意見なし 2. 協議事項 (1)平成31年度取り組み実績及び令和2年度取り組み方針(案)について 意見なし (2)セーフコミュニティ実態調査について
委員1	本年度は、新型コロナウイルス感染症による人と人の距離をとるような方向が国から出され、市民の孤立化と家庭内での距離が近すぎる問題、経済問題も多く含まれるため、バイアスを何かの型で補正する必要がある。
委員2	(3)セーフコミュニティ活動推進事業所連携事業(仮称)について 進んで登録する事業所、団体等は意識が高いと思う。募集だけでなく、市が積極的に企業や団体へアプローチしていくためにどのように展開するかが重要だと思う。
委員3	・自殺予防に関して取り組む事業所にはどのような事業所が考えられるか？ ・登録をやめたい、もしくは登録に値しない状況(法令違反等)になった事業者、活動をほとんどしていない事業者への対策は、事前に考えておくべきではないか。
事務局	自殺予防では、これまでゲートキーパー活動への取り組みに賛同していただいている団体があると考えている。 3. その他
委員4	新型コロナウイルスの感染拡大の影響で学校が2ヶ月近く休みだったため、子どもの不登校、不安、ひきこもり、孤立感などの問題が出現しやすい。SOSの出し方教育や相談窓口の拡充・関係機関との連携などの対策がより必要だと思う。
委員1	新型コロナウイルスの流行による社会的孤立や経済的困窮、アルコール依存症、うつ病の多発から自殺の増加が予想されるため、他国、他県、県内の他市町村と比較が必要である。
委員5	新型コロナウイルスに関連した対策とともに、親が80歳代、子どもが50歳代になり親子で生活が困窮する、「8050問題」に対応した対策も必要になると思う。
委員2	私の家族の経験から、本人がうつ病であると認識できる事はなかなか難しいことだと思う。同居の家族でも気づけないことが多い。家族にうつ病の方がいる人へ少しでも留まるようには、広報の連載などで啓発できればいいと思う。こころの相談カフェはとても良い取り組みであると思う。ただ、カフェに行ったり電話する事は勇気のいることであるから、SNS等と連動した取り組みがもっと普及できればいいと思う。
委員6	子ども・若者向けに「はなそうカード」を作成・配布しているが、相談先に担当課の保健予防課が掲載されていないことに違和感を感じる。長期休み明けのチラシには保健予防課が掲載されている。
事務局	「はなそうカード」は児童・生徒への配布を想定し、カード中面の相談窓口については、18歳以下からの相談に特化した相談窓口を記載し、保健予防課は発行元の記載も兼ねて、カード表紙に記載している。長期休み明けのチラシは、保護者へ向けたチラシであり、保護者からの相談を想定し、保健予防課を記載している。